

# 地雷被害の現状知る

— 久松中で平和集会 —

## 除去機開発の雨宮さん講話

市立久松中学校(平良ヒロ子校長)で19日、慰霊の日にむけた平和学習週間の取り組みの一環として平和



真剣な面持ちで雨宮さんの話に耳を傾ける生徒たち＝久松中体育館

集会が開かれた。カンボジアやアフガニスタンなど地雷原に住む人たちに安全な生活をとり戻してもらおうと地雷除去機を開発して自らも除去活動などを行って

いる雨宮清さん(日立建機代表)が講話し、生徒たちに「平和のために自分たちができることを考えてほしい」と呼びかけた。

雨宮さんは23歳で建設機械整備会社を設立。カンボジアを訪れた際に地雷被害者たちの悲惨な現状を目の当たりにし「この国の人たちのためにできることはないか」と考え地雷除去機の開発に着手した。現在はカンボジアをはじめとする世界9カ国で86台の地雷除去機が稼働している。

講話の中で雨宮さんは、今もなお世界120カ国に



雨宮清さん

1億個を超える地雷が埋まっていることや、地雷によって手足を失った住民たちの苦しみ様子を紹介し「地雷は、家族、子どもの夢や希望を一瞬にして奪ってしまう。このような悪魔の兵器から一人でも多くの人を守るために除去機開発に取り組んでいる。皆さんも平和のために自分たちができることを考えてほしい」と語った。

同校では6月23日の「慰霊の日」までの一週間を平和学習週間と定め、▽生命や人権を尊重する心を育てる▽他人の立場を尊重し、思いやりの心、寛容の心を育てる▽沖繩の歴史的特性に基づき、平和を学ぶ心を育てる―ことを目的に取り組んでいる。